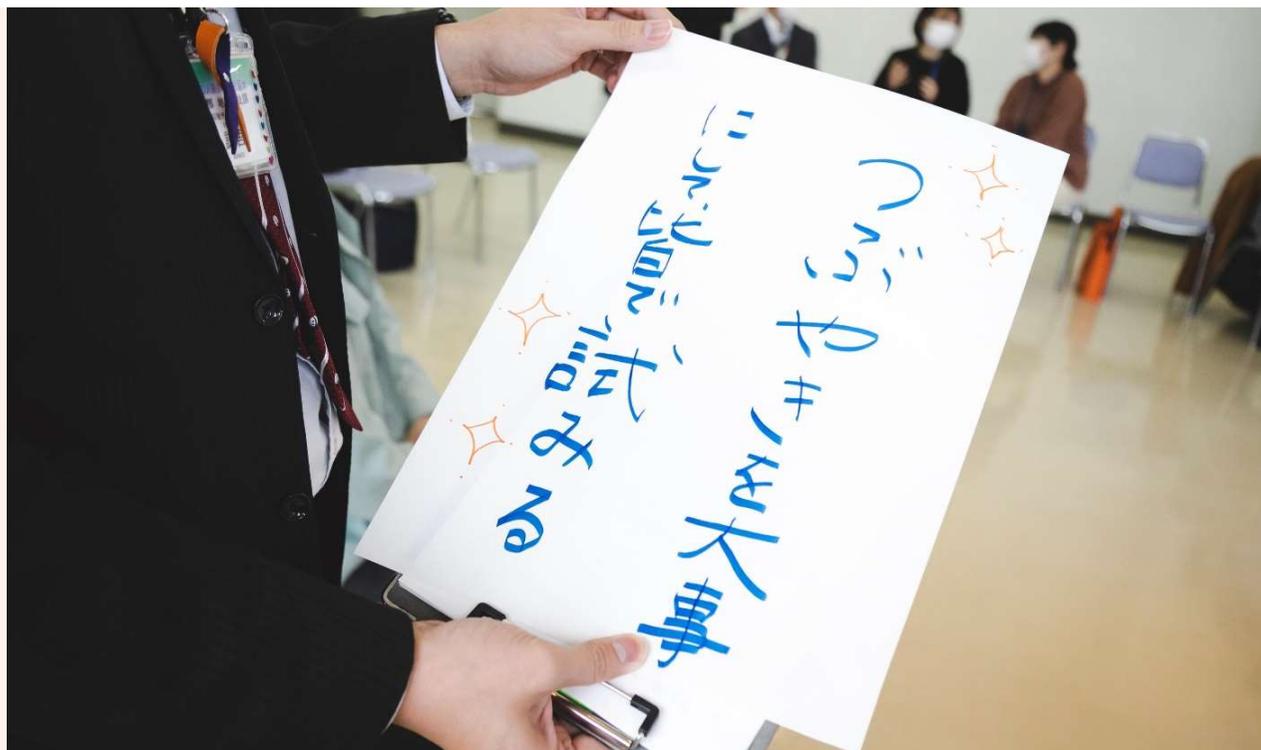


互いの“できる”を重ね、重層的な支援体制へ

—令和3年度から始まった 重層的支援体制整備事業—



久留米市 健康福祉部 地域福祉課

久留米市の紹介 (令和5年1月1日現在)

- 人口 : 302,384人
- 世帯数 : 140,229世帯
- 面積 : 229.96km²
- 高齢化率 : 27.81%
- 沿革 : 明治22年 我が国初の市制施行
(全国の38市とともに)
平成20年 中核市へ移行
平成31年 市制施行130周年



【主な支援機関】

- 地域包括支援センター : 11ヶ所
- 障害者基幹相談支援センター : 4ヶ所
- 生活自立支援センター : 1ヶ所
- こども子育てサポートセンター : 1ヶ所
(母子健康包括支援センター)
- 保健センター : 保健所+5ヶ所

組織概要

健康福祉部

一 総務

一 地域福祉課

一 健康保険課

一 医療・年金課

一 障害者福祉課

一 長寿支援課

一 介護保険課

一 生活支援課

一 保健所各課

【所管事務】

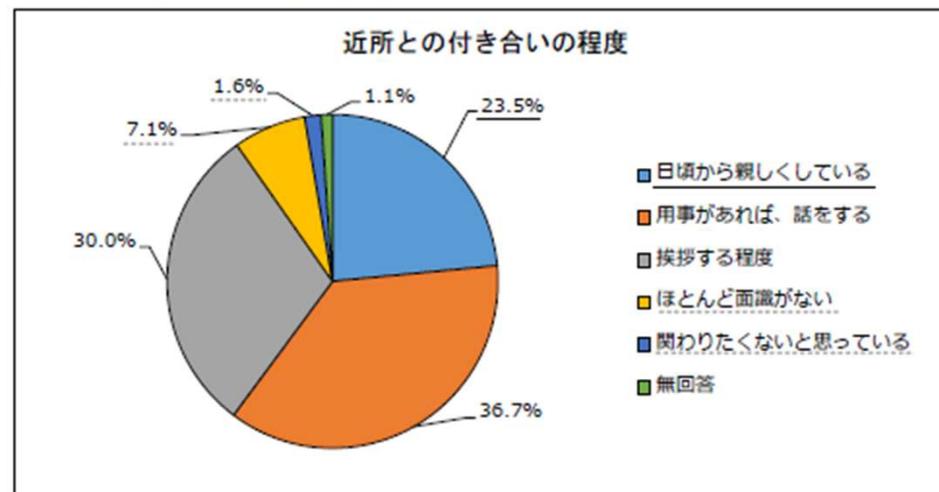
- ・地域福祉の推進
- ・社会福祉協議会に関する事
- ・避難行動要支援者に関する事
- ・民生委員児童委員に関する事
- ・再犯防止や保護司会に関する事
- ・社会福祉審議会に関する事
- ・社会福祉法人の指導監査

親しい近所付き合いは
2割程度

一方、市民の6割が地域
活動への参加意向あり

①近所付き合いの程度

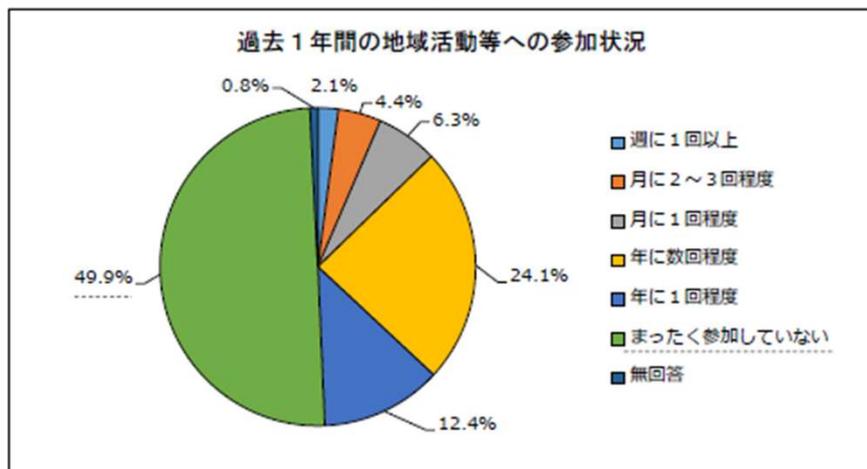
日頃から親しくしている人の割合が2割程度である一方、ほとんど面識がない、関わりたくないと思っている人も1割程度います。



※久留米市「第43回久留米市民意識調査」(令和元年度(2019年度)実施)より
(「あなたは、近所との付き合いがどの程度ありますか。」という問に対する回答状況)

②地域活動等参加状況

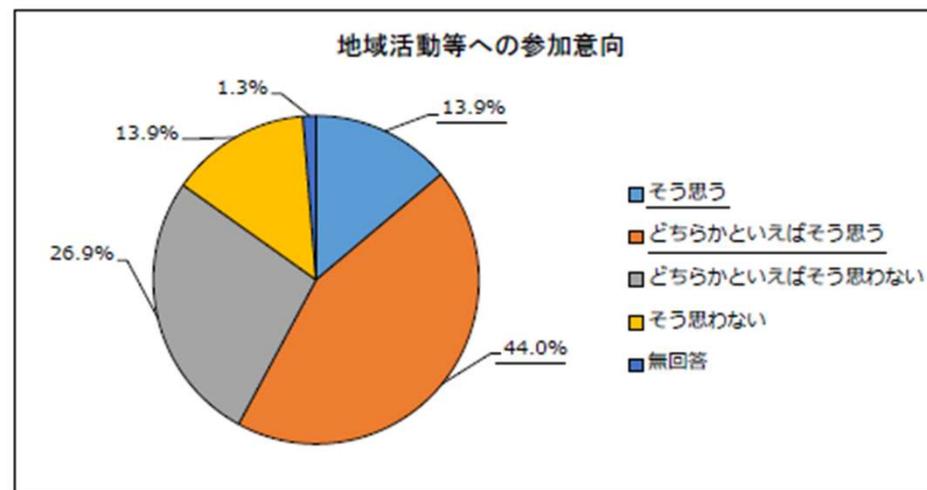
地域活動等(校区コミュニティ活動、自治会活動、ボランティア活動など)に全く参加していない人の割合が5割程度となっています。



※久留米市「第43回久留米市民意識調査」(令和元年度(2019年度)実施)より
(「あなたは、この1年間に、市民活動にどの程度参加しましたか。」という問に対する回答状況)

③地域活動等への参加意向

地域活動等に参加したいと考えている人の割合が6割程度となっています。



※久留米市「第43回久留米市民意識調査」(令和元年度(2019年度)実施)より

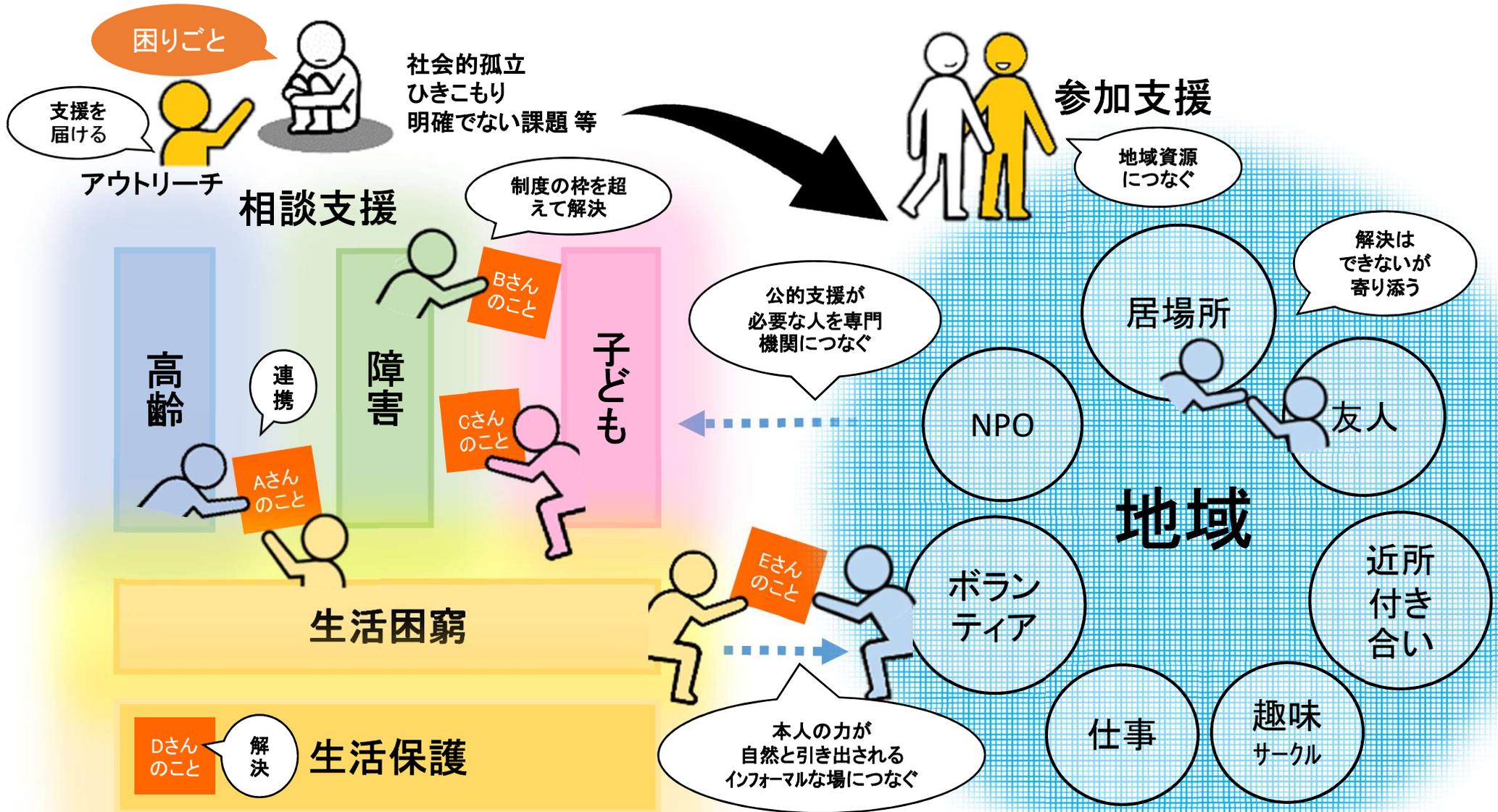
久留米の重層的支援体制整備

重層事業の 1歩目

- ・支援を届ける
- ・枠を超える
- ・他の方法を考える

と 目指すゴール

- ・「支える／支えられる」を超える
- ・相談支援と地域の距離が近くなり、支援のあり方が変化する



それぞれの良さやノウハウを、互いに活かし合うことが重層の目指す姿

①すでに久留米にある多彩な地域づくり

エリアに基づく地域づくり

支え合い推進会議

(第2層協議体)

地域生活課題の解決に向け、校区コミュニティ組織単位で、必要な仕組みづくりや既存の取り組みの充実について話し合う場(全46校区に設置)



支え合い推進会議の様子

◆会議のテーマ

- ・高齢者の地域生活課題(ごみ出し、買い物代行等)
- ・dボタンの使い方研修会
- ・ワクチン予約支援
- ・発達障害児についての勉強会
- ・防災に関する見守り体制の検討など

小地域ネットワーク活動

校区コミュニティ組織単位で、ボランティア団体であるふれあいの会が活動(現在38団体)



訪問活動の様子

◆主な活動内容

- ・訪問活動(ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯等)
- ・食事サービス(会食・配食)
- ・サロン(自治会単位)

久留米市市民活動 絆づくり推進事業費補助金

市民の皆さんとの協働によるまちづくりを推進するため、NPO法人やボランティア団体が行う市民活動に対して、必要な経費を助成するもの

◆補助対象事業部門

- ・身近な課題解決に取り組む「かなえるニーズ部門」
- ・市設定テーマに関し、担当課と団体が協働して取り組む「協働パートナー部門」
- ・地域コミュニティ組織が課題解決に取り組む「地域まちづくり活動活性化部門」



研修会
ギャンブル依存症についての



ツインズクラブの皆さん

市民活動の様子

画像出典:くるめ支え合うプラン

久留米市市民活動サポートセンター みんくる

ボランティアやNPOのネットワークづくりや情報発信、イベントや会議の場の提供など、市民活動を活性化



画像出典:みんくるHP



久留米市社会福祉協議会 ボランティアセンター

市民が取り組むボランティア活動を支援し、ボランティア活動のさらなる活性化を推進



画像出典:久留米市社協HP

興味関心に基づく地域づくり

きっかけは…H29～R1年度に実施した

「保健福祉分野における民間活力を活用した社会的事業の開発・普及のための環境整備事業」

超少子高齢化・人口減少社会にどう向き合うかをテーマに、
社会福祉法人・まちづくりの若手・行政・社協が
コンソーシアムを形成



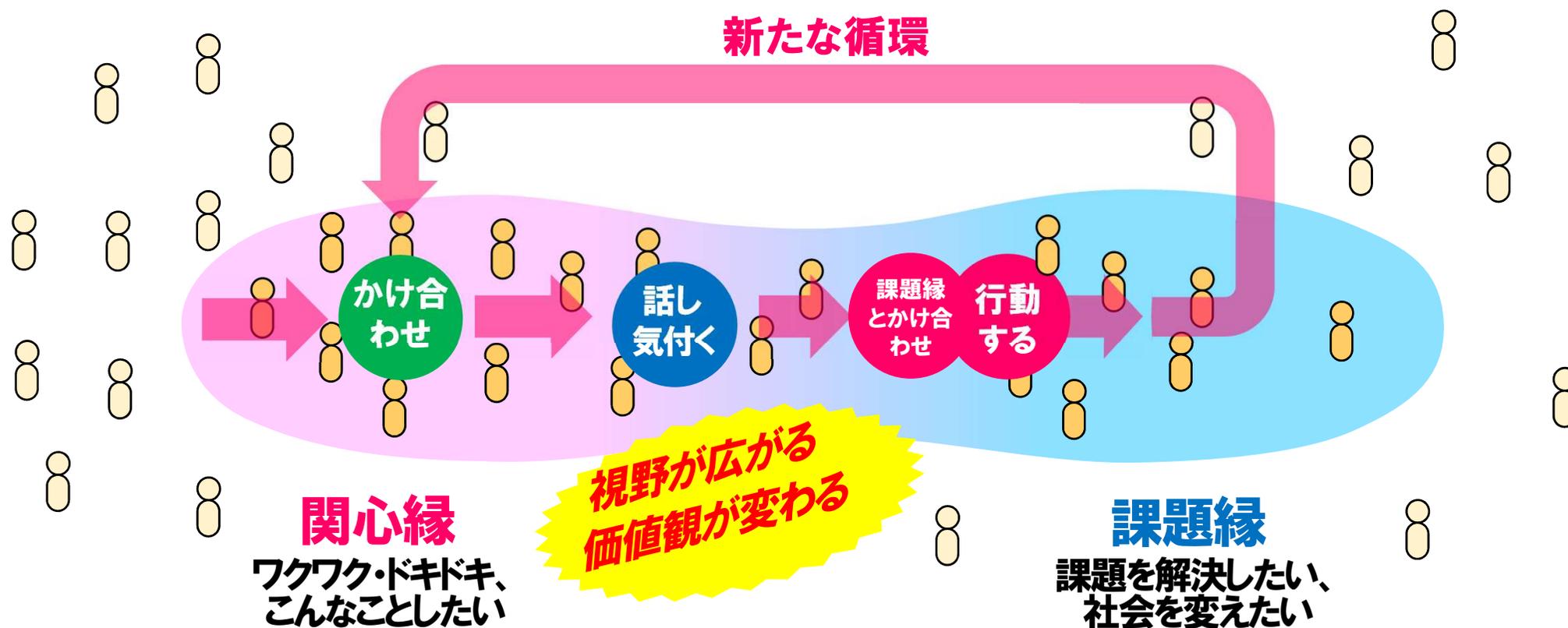
画像出典：厚労省HPに掲載された久留米市資料

【3年間を振り返って気づいたこと】

- ・解決型思考だけではなく可能性型志向も
- ・異世代×異文化のかけ合わせが可能性を生む
- ・民間と行政が事務局を協働運営できる
- ・興味関心から地域課題に気づくことがある

関心をきっかけに人と人がかけ合わされ、地域が見えて課題解決へと循環

次世代を担う若い人が多面化していくためには
関心縁から地域にローカルログインすることからはじまる



立場を超えて本音で 向き合える関係性を紡ぐ

H29~R1
コンソーシアム事業

R1~R2
包括的支援体制構築事業

R3~
重層的支援体制整備事業
-支え合うプラン取組推進事業-

事業の他にも
人との出会い、意識の変化で
多彩な活動が誕生

ひとり親支援拠点 **じじっか**
久留米オンライン公民館
コミュニティスペース **ぷらっと.荘島**
児童発達支援 出会いの場 **Leo**
地域に優しい創意工夫のお店 **本業+α**
NPO法人 **久留米10万人女子会**
シミュレーションブレンド **備えあいフェスタ**

令和2年度包括的支援体制構築事業

はじける文化と 地域ロマン



⇒ 人と人の距離を縮める手法を模索

令和3年度支え合うプラン取組推進事業

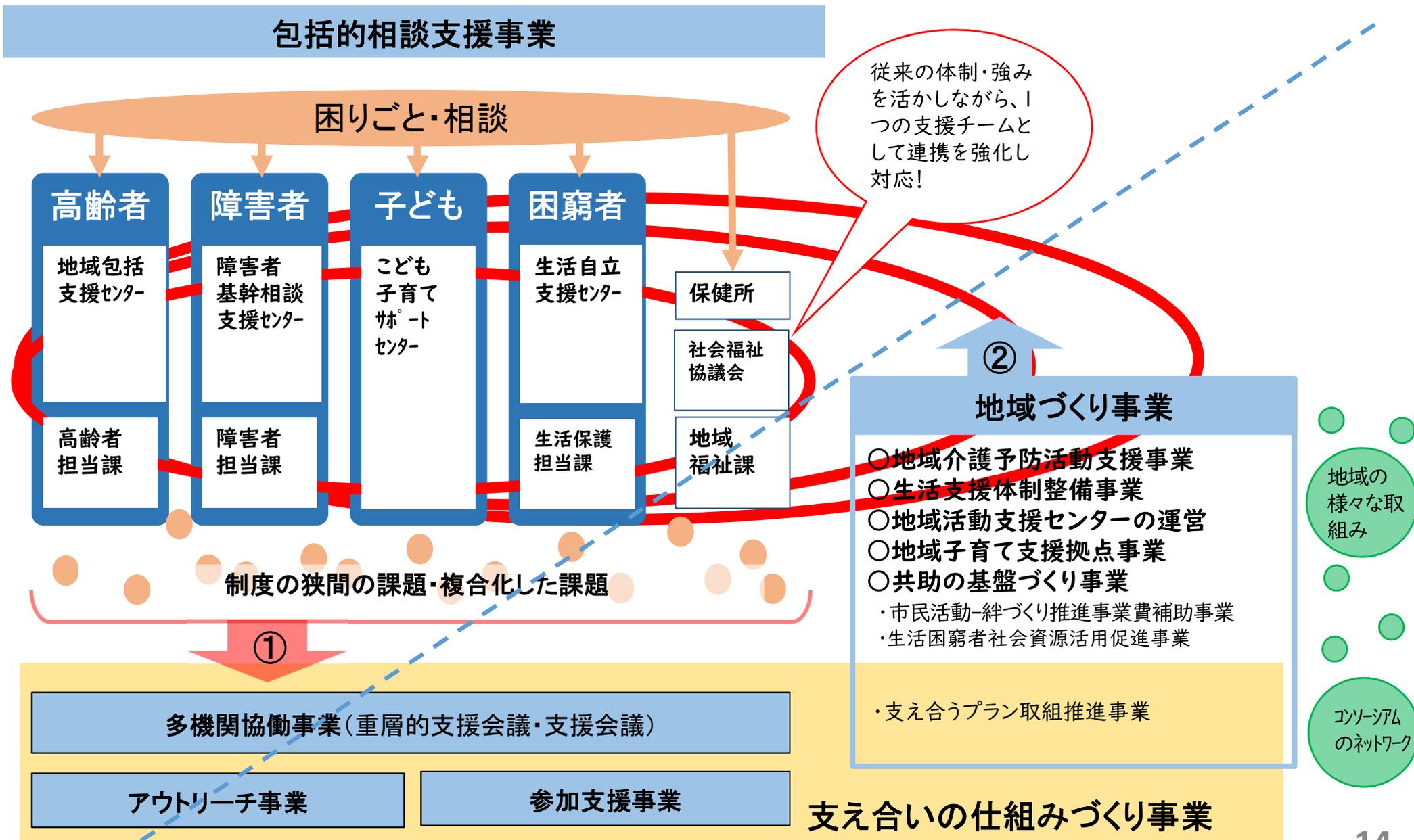
地域福祉NEO



⇒ 全ての住民が自分事として関わり合える
手法を模索

重層的とは、人の重なりを創ること。

②久留米の相談支援の重層化



事業展開の工夫

重層的支援会議・支援会議の概要 開催日：毎月第4水曜日（縮小版や臨時会議も開催）

固定の参加者

高齢者

地域包括
支援センター

高齢者
担当課

障害者

障害者
基幹相談
支援センター

障害者
担当課

子ども

こども
子育て
サポート
センター

困窮者

生活自
立支援
センター

生活保護
担当課

保健所

社会福祉
協議会

地域
福祉課

+

ケースに応じた参加者

- 家族、友人、職場の先輩
- 民生委員、自治委員
- ケアマネージャー
- 子どもの学習支援事業者
- ホームレス支援団体
- ハローワーク
- 地域の商店主
- 市の関係課
 - ・市営住宅担当課
 - ・児童虐待担当課
 - ・男女平等推進担当課
 - ・学校教育担当課
(スクールソーシャルワーカー)



アウトリーチ事業者

参加支援事業者

運営者：多機関協働事業者（久留米市社会福祉協議会）

《重層的支援会議》 個別ケース会議＋重層的を考える会

- ・複数の支援機関等が関与する必要があり、役割調整が必要なケース
- ・既存の福祉サービスでは本人や世帯のニーズに対応できないケース
- ・多様な視点から課題を解きほぐし、見立てを重ね、支援を検討する必要があるケース
- ・社会資源の充足状況に向けた把握と開発に向けた検討

《支援会議》 個別ケース会議

- ・気になる事例の情報提供・情報共有
- ・見守りと支援方針の検討

重層的な支援体制の構築を考える会 実施一覧

	テーマ ※()は説明者
第1回(R3.9)	<ul style="list-style-type: none"> ・重層的支援体制整備事業(地域福祉課) ・久留米市社協の取組(市社協) ・校区社協及びふれあいの会の取組(校区社協)
第2回(R3.11)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭子ども相談課の取組(家庭子ども相談課) ・こども子育てサポートセンターの取組(こども子育てサポートセンター) ・じじっかの取組((一社)umau.)
第3回(R3.12)	<ul style="list-style-type: none"> ・家計改善支援事業(生活支援課) ・日常生活自立支援事業(福岡県社協) ・成年後見事業(長寿支援課)
第4回(R4.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動サポートセンターみんくる事業・ボランティア団体紹介(協働推進課・みんくる) ・住宅環境整備支援 ※ごみ屋敷(長寿支援課)
第5回(R4.4)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の就労支援について(ハローワーク久留米)
第6回(R4.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・LGBTの方の現状について(当事者・人権同和対策課)
第7回(R4.6)	<ul style="list-style-type: none"> ・再犯防止の取組について(保護司会・県定着支援センター) ※越冬活動の会も交えて意見交換
第8回(R4.7)	<ul style="list-style-type: none"> ・生きづらさのある子の家族が知っておきたい親なきあとについて(当事者・行政書士) ※ひきこもり家族会も参加
第9回(R4.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の振り返りと今後に向けてーこの1年で見えたことー(地域福祉課)
第10回(R4.9)	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーマルとインフォーマル。久留米らしい重なり方を考える(久留米らしい重なり方デザイン事業受託者)

フォーマルとインフォーマルが重なったケース

(アウトリーチ事業+参加支援事業+地域資源)

ケース概要

- ・母Dさん (70代)
・視覚障害あり
- ・Eさん (40代)
・体調面の不安で就労継続が難しくなった。世帯が一時困窮
・親や弟の将来に悩み
- ・Fさん (40代)
・職場での叱責が原因で、20年ひきこもり
- ・Gさん (40代)
・小学校から高校まで不登校
・職場の人間関係が原因で20年ひきこもり
・受診拒否

支援内容

■アウトリーチ事業者

- ・支援プラン策定
- ・Eさんの体調に合った就労先を提案
- ・Fさんに農業ボランティア体験を提案
- ・Gさんの行政手続に同行、いろいろな人が集まるサロンを紹介、趣味を把握

ボランティアセンターとの連携

■参加支援事業者

- ・支援プラン策定
- ・Fさん、Gさんの転職面接に同行
- ・花火大会のごみ拾いにお誘い
- ・免許証がないことに気づき、自転車を手配

転職せざるを得ないタイミングをキャッチ。



現在の状況

世帯に継続的に関わる人が増え、Eさんや母の気持ちが落ち着いた。

世界一おいしいホットサンドがあるよ。



- ・Eさんは本業も順調に。副業も加わり増収
- ・Fさんは自転車で行動範囲が広がり、サロンにも来訪。現在は一般就職。
- ・Gさんはサロンにも来訪。今後Fさんの仕事を引継ぐ。

職場の人にお土産購入

早めの対応により、世帯の更なる困窮を防いだ。

支援期間(8ヶ月)

※アウトリーチ事業者が**本人との信頼関係**を築き、**社会参加**をスタート。参加支援事業者も加わり、**本人のつまづきポイント**を解消し、**社会参加に伴走**。地域資源も活かし切れ目ない支援が進んでいる。

人と制度、人と人の関わり方の現状を捉え直し、フォーマルとインフォーマルの支援体制やノウハウ、価値観などを融合させた、久留米らしい重なり方をデザイン

令和4年度久留米らしい重なり方デザイン事業



これまで出会った
人達が、チームを
創って事業スタート

事業の振り返りと展望

効果は、
まだほんの
一部

- (変化) ○各分野の中心メンバーは、できることを重ねる意識を持ち始めている
○高齢・障害・子ども・困窮の各課・機関が、自分たちの事業だと認識
○事業に詳細な要件がないからこそ、新しいアプローチを生み出せる

- (課題) ●本人の困り感と周囲の困り感にズレがある
●各窓口の職員や社会資源を持つ部局、市民活動団体への波及が不十分
●孤立を生まない地域づくりが不十分



すでに地域で行われている交流活動を地域福祉の視点で捉え直し、取組同士をつないだり、フォーマルサービスとインフォーマルの力の重層化に取り組む。
課題を抱えた時に、地域の中で緩和されたり公的支援にもつながりやすい基盤の整備へ。

久留米らしい地域共生社会とは

〇〇し合えるまち になること。

「困った」、「叶えたい」。
その瞬間、気軽に頼りやすい関係性がある。
ツテを頼って、あとちょっと試行錯誤できる。
それが巡り巡って、ほかの人も暮らしやすくなる社会のこと。

こんな意識で重層事業を進めたい

専門職も住民も、「力になりたい」思いは同じ。

だから ツテを頼る、あとちょっと試行錯誤してみる。

知識	より	意識	… ちょっと知り合いに聞いてみる
課題	より	可能性	… 違う選択肢を考えてみる
解決	より	関係性	… 寄り添う、一緒に動く、立ち止まる

関わる人が増加

地域福祉マガジン

“し合う”が今、面白い

グッチョ

Guccho



KURUMECITY HP

NOTE



画像出典:久留米市HP